

日立金属グループの紛争鉱物調達方針

紛争鉱物

アフリカ大陸の中部に位置するコンゴ民主共和国（Democratic Republic of Congo）、およびその周辺国（DRCおよび周辺国）には多くの鉱物資源が埋蔵されています。例えば電子部品をプリント基板に固定するはんだなどに含まれるスズ、コンデンサなどに含まれるタンタル、超硬材料などに含まれるタングステン、電子部品のリードフレームなどに使われる金の鉱石などがあります。

現地の住民らはそれらの鉱石を採掘、仲買人、トレーダーなどはそれらを海外に輸出することによって貴重な外貨を得るわけですが、その外貨の一部を同地域で紛争や人権を侵害する行いを繰り返している武装集団が強制的に徴収して武器を購入するなどの活動資金に当てていることが大きな問題になっています。このために上記した鉱物は“紛争鉱物”と呼ばれています。

日立金属の調達方針

日立金属グループは、紛争鉱物を含んだ部材を調達することによって同地域の武装集団の活動を助長することが無いように責任ある調達活動に取り組んでいくことを方針として掲げています。また同時に「OECD紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデューデリジェンスガイダンス」を尊重し、その内容に基づいてより詳細な調査にも取り組んでいます。

そしてサプライヤ各社に対しては、EICC/GeSIが開発した Conflict Minerals Reporting Template（紛争鉱物報告書）を活用し、鉱物の原産国およびサプライチェーンに関する調査を継続していくと同時に、*CFS（Conflict Free Smelter）からの調達も要請していきます。

*CFS（Conflict Free Smelter）：

紛争鉱物問題に取り組む団体であるEICC/GeSIが設立した組織であるConflict Free Sourcing Initiative（CFSI）が「同地域での紛争に関わっていない」と認定した製錬業者のこと。

以上